

| | | | | | | | |
|--------------------|---|------|------------------------|------|--|--|--|
| 開講年度 | 令和7年度 | | 開講課程 | 博士課程 | | | |
| 授業名 | 疫学方法特論 | | | | | | |
| 開講キャンパス | 紀三井寺・伏虎 | 教室 | 基礎教育棟3階講義室3 中講義室303 | | | | |
| 科目区分 | ベーシック科目 | 配当年次 | 1年次 | | | | |
| 必修・選択の別 | 必修 | 単位 | 1単位 | | | | |
| 対象学生 | 一 | 使用言語 | 日本語 | | | | |
| キーワード | 疫学、EBM（科学的根拠に基づく医学）、ヒト集団 | | | | | | |
| 担当教員 (下線:科目責任者) | 医 教授 藤吉 朗、准教授 東山 綾、准教授 牟礼佳苗 薬 教授 岡田 浩 | | | | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、ヒト集団を対象とした広義の疫学研究（いわゆる臨床研究も含む）の立案や、関連論文の批判的吟味に必要とされる疫学の重要概念や研究手法を系統的に理解・習得することを目的とする。 | | | | | | |
| 到達目標 | □広義の疫学研究（臨床研究も含む）の立案及び論文の批判的吟味に必須と考えられる重要な疫学概念や研究手法を理解し、説明できる。 | | | | | | |
| 授業計画 | <p>1. 疫学総論（藤吉 朗／1回）【7/2 6限】 疫学の歴史、疫学研究の定義、医学研究における位置づけなどを論ずる。</p> <p>2. 頻度の指標・関連の指標（東山 綾／1回）【7/9 6限】 有病率、累積罹患率、罹患率、相対危険度（オッズ比を含む）などを講義する。</p> <p>3. 研究デザイン（牟礼佳苗／1回）【7/10 6限】 ヒトを対象とした研究で理解が必須である研究デザインについて講義する。</p> <p>4. 誤差・交絡（牟礼佳苗／1回）【7/10 7限】 偶然誤差・系統誤差（バイアス）の概念、妥当性・再現性、交絡に関し講義する。</p> <p>5. 臨床疫学（岡田 浩／1回）【7/16 6限】 診断関連の指標（感度、特異度、ROCなど）について講義する。</p> <p>6. 科学的根拠に基づく医学（EBM）（岡田 浩／1回）【7/16 7限】 EBMの成り立ち・考え方、臨床応用について講義する。</p> <p>7. 交互作用（東山 綾／1回）【7/23 6限】 生物学的交互作用、統計的交互作用について講義する。</p> <p>8. 因果論（藤吉 朗／1回）【7/23 7限】 Hillの基準、“因果のパイモデル”を示し十分原因(sufficient cause)などについて講義する。</p> | | | | | | |
| 授業の方法・形態 | 講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。 | | | | | | |
| 使用するメディア | パワーポイント等によるスライド資料を使用する。 | | | | | | |
| 成績評価の基準 | 授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。 | | | | | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 授業時間外の学修に関する指示 | 教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。 |
| オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応） | 担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。 |
| 教科書・参考書 | <p>【教科書】特に指定しない。</p> <p>【参考書】「はじめて学ぶやさしい疫学：日本疫学会標準テキスト」 改訂第4版 監修：日本疫学会 出版社：南江堂 「基礎から学ぶ楽しい疫学」第4版 著者：中村好一 出版社：医学書院 「Epidemiology:An introduction:Kenneth Rothman」(2nd ed.) 出版社：Oxford University Press. 訳本『ロスマンの疫学（篠原出版新社）』 「Gordis Epidemiology」(6th ed.) 出版社：Elsevier. 訳本『疫学 -医学的研究と実践のサイエンス-（メディカルサイエンスインタークショナル）』</p> |